

私が留学で得たもの

第9回 T N 国際貢献奨励奨学金受賞者 石塚夏希

私は2013年の8月下旬から12月下旬までの約4か月をハワイ大学ヒロ校で過ごしました。ハワイはリゾート地のイメージが強いと思いますが、大学のキャンパスがあるヒロは自然が多い田舎町で、日本人観光客とすれ違うことはさほど多くありませんでした。大学には様々な国籍の学生がおり、キャンパスを歩いていると英語だけでなく韓国語や中国語、パラオ語などが聞こえてきます。またアメリカ人の学生はハワイ出身者だけでなく、アメリカ本土からも多く来ています。留学前は差別を多少心配しておりましたが、様々なバックグラウンドをもつ学生が集まったキャンパスではお互いを受け入れ、尊重し合う雰囲気です。伸び伸びと過ごすことができました。ハワイに留学して良かったと思う点は、日本文化に興味のある学生が多く、友達を作りやすかったという点です。ハワイに移民してきた日本人の先祖を持つ学生が多いというのと、日系の方が多く暮らす土地柄でしたので、日本に対して寛容な人が多かったと感じています。

留学での一番の収穫は、友情を築けたことももちろんですが、友達との会話や授業を通して自分の考えが日本の型にはまったものであることに気が付いたことです。卒業後に大きなビジョンを掲げている人もいれば、卒業してからゆっくり考えるという人や、また暮らし方に関しては定住をせずに自由に暮らしたいという友達もいました。就職活動を目前にした私にとって、こういった様々な考え方は非常に驚きで、「安定」ばかりを求める人生だけが決して幸せとは限らないのだと感じました。

5つとった授業の中では女性学の授業が最も刺激的で、今まで特に気にすることもなかったことを批判的な視点でみることで、いかに女性が現社会でも抑圧されているかを気付かされました。男女の賃金格差や雇用の現状など普段から問題視されている事柄だけでなく、家庭においても女性が母親としての役割を期待される風習を疑問視することは、それを普通だと思っていた自分の考えを揺さぶりました。また同性愛者について取り上げることも多く、自分は今まででは文学作品に登場してきた場合でも特別な存在として解釈していましたが、同性愛者の方のお話を直接きいたり、クラスメイトの周りの同性愛者のエピソード

ソードを聞く上で、人間が同性を愛することはごく自然なことであるのだと感じました。「常に自分に正直でありなさい」という教授の言葉は、人生を通して自分に投げかけられることでしょう。

ハワイ大学の学生たちは、自分の個性をファッションであったり芸術であったり、いろんな方法で主張していて皆が輝いていました。今までは他人と異なることに不安を感じることがありましたが、“Be open-minded”と友達に言われた言葉を胸に、自分らしさを大切に生きていきたいと思います。